花園町通り

愛媛県松山市

14 公園・オープンスペー スへのアクセス

花園町通りは、市駅前広場と松 山城内の城山公園(堀之内地 区)を結ぶ街路となっている

な交通手段が用いられている

27 柔軟に使える余白

普段は歩行者・滞留スペースで あるところが、イベント時にはマ ルシェ・イベントなどが実施で きるように配されている

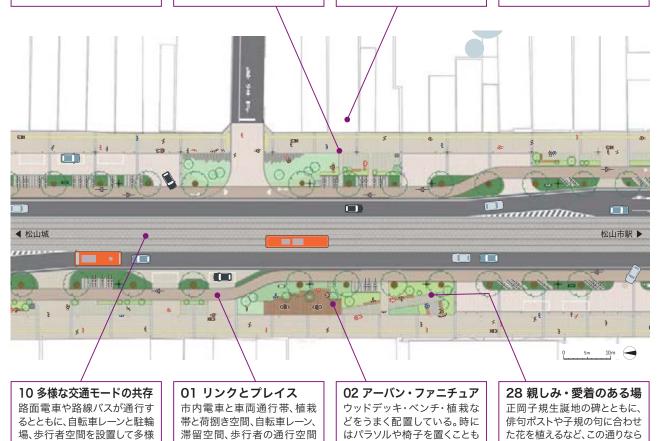
29 エリアマネジメント

地域の商店街による組織や、中間組織である松山アーバンデザインセンター (UDCM) が豊かな使い方をマネジメントしている

23 身近な緑の保全・創出

既存の樹木を残したり、新たな 植栽を豊富に用意して、緑ある 街路を目指している。沿道住民 が管理する植栽帯もある

ではのみちづくりを実施している



ある

松山市中心部に位置し、40mという広い道路幅を持つ花園 町通りでは、2017年に完了したリニューアル整備において、〈賑 わいと交流を育む「広場を備えた道路」〉というコンセプトのもと、 「歩いて暮らせるまち松山」のシンボルロードとしてふさわしい 景観整備、道路空間の再配分、賑わいと交流の場づくりなどが 実施された。

をうまく共存させている

「歩いて暮らせるまち松山」のシンボルロードである花園町通りは、松山駅や商業・業務機能が集積する中心市街地、松山城や道後温泉本館といった観光資源等の拠点を結ぶ歩行者ネットワークを形成している。その結果、歩行者の回遊性が向上し、

歩いて楽しい中心市街地に貢献している。片側2車線の車道を 1車線に縮小することによって生まれた空間を歩道や自転車道、 滞留空間や植栽帯などに再配分することで、安全・安心で人に やさしく歩きやすい空間を創出している。正岡子規の生誕地跡 周辺には、「俳句ポスト」を設置することで歴史に配慮し、ウッド デッキやベンチには県産木材などを用いることにより、住民にとっ て親しみ・愛着のある場となるように計画されている。芝生広場 やウッドデッキなど、人々が滞留するスペースに加え、イベントに も活用可能な電源・給排水設備を設けることで、賑わいや地域 交流の場を創出し、道路を単に移動するためだけではなく、滞





花園町通り(幅員40m)は、道路再配分事業を通じて、自動車や路面電車、自転車などの多様な交通手段が共存する場を設けながら、歩行者が快適に通行する空間、そして、人々が佇んだり休んだり、時には活動するための滞留・利活用空間が適切な形で配置されている



時には、オープンカフェのパラソルやベンチ・テーブルなどを設置したり、露店を設置してマルシェイベントなども可能となるように、柔軟に使えるような余白部分が用意されている。また、荷捌きスペースや駐輪スペースなども、通りの風景を阻害しないように工夫して織り交ぜられている







正岡子規生誕地を示す碑や俳句ポストの設置、子規の句に合わせた花の植栽など、地域の個性を感じさせる設えが用意されているとともに、沿道住民が愛着を持って管理する植栽帯なども設けられている。また、様々な活動を支援する組織(松山アーバンデザインセンター)の拠点も、沿道に設置されている(2021年11月現在)

留することもできる空間を実現している。

整備にあたっては、有識者・交通事業者・行政等が参画する 懇談会や、地域住民・学生・公募者等によるワークショップを 開催し、空間の活用方法について意見交換が重ねられ、公民学 の連携でリニューアルが取り組まれた。整備後は、歩行者の通行量が増加したほか、広くなった歩道では、地元商店街が主催

するマルシェイベントなどが開催され、家族連れなど大勢の人で 賑わっている。また、多様な過ごし方ができる「広場を備えた道 路」には、芝生広場であそぶ子どもたちや、子育て世代がデッキ で語らう姿、花を育てる住民など、「暮らしの場」としての風景が 生まれ、近頃では、地元主体による結婚式やヨガ教室など従来 の使い方を超えた自由な使い方も始まっている。

参考文献

・松山市都市整備部都市建設課、「花園町通りリニューアル 賑わいと交流を育む 広場を備えた道路」、https://www.city.matsuyama.ehime.jp/shisei/kakukaichiran/tosiseibibu/dourokensetuka.files/300305hanazono_A3panfu.pdf、(参照2021-10-20)